

沿 革

〔名 称〕 国立成育医療センター

急速に少子高齢化が進むなか、次世代の健全な育成は、われわれ世代の責務である。

「国立成育医療センター」は、国立大蔵病院と国立小児病院の統合により、わが国5番目のナショナルセンターとして平成14年3月1日開設された。

当センターの使命は、高度専門医療センターとして病院と研究所の連携により、成育医療（小児医療、母性・父性医療及び周辺・境界領域を包括する医療）及びその基盤研究を推進していくことである。

〔経 緯〕

昭和61年	1月	国立病院・療養所の再編成・合理化の基本指針に基づく全体計画の中で国立大蔵病院と国立小児病院の統合計画を公表
平成6年	7月	国立成育医療センター（仮称）整備基本計画検討会の設置
平成6年	11月	国立成育医療センター（仮称）整備基本計画検討会 中間報告
平成7年	4月	国立成育医療センター（仮称）設置準備室開設
平成7年	5月	国立成育医療センター（仮称）整備基本計画検討会 最終報告
平成9年	1月	国立成育医療センター（仮称）整備基本計画公表
平成9年	3月	国立成育医療センター（仮称）整備工事着工
平成13年	11月	国立成育医療センター（仮称）整備工事（病院棟）竣工
平成14年	3月	国立成育医療センター開設
平成16年	8月	国立成育医療センター研究棟 竣工
平成16年	10月	国立成育医療センター研究所 移転開設